

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年4月7日

【評価実施概要】

事業所番号	0891700049		
法人名	有限会社メディカルアシスト		
事業所名	グループホーム たんぼぼ		
所在地	茨城県取手市桜ヶ丘1丁目17-13 (電話) 0297-70-8452		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成20年12月4日	評価確定日	平成21年4月7日

【情報提供票より】(平成20年11月12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成20年2月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	13人, 非常勤 2人, 常勤換算 13.8人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1階建ての	～ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000円～48,000円	その他の経費(月額)	19,500 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (150,000円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり		1,250 円	

(4) 利用者の概要(平成20年11月12日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	8 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81 歳	最低	57 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人仁誠会 阿見第一クリニック 江島記念眼科歯科クリニック ペガサスデンタルクリニック
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは整備された住宅地の外れに位置しているため背後に農地が広がり、閑静な居住環境と豊かな自然環境の両方を享受できる立地環境にある。
理念に掲げている「市民生活の継続」を具現化するため、地域や家族と積極的に交流を図り利用者本位のケアを実践している。
家庭的な雰囲気を利用者と職員が支え合いながら、良い人間関係を築いている。
協力医や看護師の連携により、利用者の健康管理や療養について相談や助言を受けられる体制になっており、利用者や家族の安心につながっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 初回の受審につき該当なし。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は全職員で作成している。 管理者や職員は自己評価が自己を振り返る機会と捉え、改善すべき所は改善し、良い所は更に伸ばすことができるようサービスの質の向上に努めている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は利用者や家族、自治会長、老人クラブ会長、民生委員、市職員、ホーム職員を委員として2ヶ月に1回開催している。 会議では理念の説明や行事の報告などを行うとともにホームへの理解を求め、地域との交流や協働について助言や意見を聴き、サービスの質の向上に活かしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族会で利用者や家族と職員が意見や要望等を気軽に話し合える場面づくりをするとともに玄関に意見箱を設置している。 重要事項説明書に苦情申立受付窓口を明記するとともに、ホーム内に掲示している。 出た意見等は苦情処理マニュアルにより改善が図られるシステムを構築している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入し夏祭りや草取り、ごみ拾い、地域防災訓練などに利用者と職員で参加している。 小学生の体験学習、踊りや民謡、オカリナ演奏などのボランティアを受入れたたり、招待を受けた小学校の運動会や集会へ参加するなど地域の人々と交流している。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「市民生活の継続」や「家庭生活に近づく」など、地域密着型サービスとして独自の理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時に全職員で理念を唱和したり、理念を事務室内に掲示するとともに名札の裏に記載するなど職員に意識づけを行い実践に取り組んでいる。 パンフレットに理念を記載するとともに、利用契約時に利用者や家族に説明している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し夏祭りや草取り、ごみ拾い、地域防災訓練などに利用者と職員で参加している。 小学生の体験学習、踊りや民謡、オカリナ演奏などのボランティアを受入れたたり、招待を受けた小学校の運動会や集会に参加するなど地域の人々と交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で作成している。 管理者や職員は自己評価が自己を振り返る機会と捉え、改善すべき所は改善し、良い所は更に伸ばすことができるようサービスの質の向上に努めている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は利用者や家族、自治会長、老人クラブ会長、民生委員、市職員、ホーム職員を委員として2ヶ月に1回開催している。会議では理念の説明や行事の報告などを行うとともにホームへの理解を求め、地域との交流や協働について助言や意見を聴き、サービスの質の向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの利用状況の報告のほか、利用依頼や生活保護手続きの相談等で行き来している。 市担当職員に地域密着型サービス連絡会に出席してもらい、助言を受けたり情報交換をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや職員の異動等の出来事などをホームだよりに記載し家族等に配布するとともに面会時やイベント時に報告している。 また、来訪できない家族には手紙や電話で随時報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会で利用者や家族と職員が意見や要望等を気軽に話し合える場面づくりをするとともに玄関に意見箱を設置している。 重要事項説明書に苦情申立受付窓口を明記するとともにホーム内に掲示している。 出た意見等は苦情処理マニュアルにより改善を図るシステムが構築されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職が生じた場合は引継ぎ期間を十分つくり、利用者へのダメージを最小限に抑えるよう配慮している。 家族等には面会時やホームだよりなどで報告している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員には1対1で内部研修を行うほか、管理者が必要と判断した研修に職員が参加している。 介護福祉士や介護支援専門員の資格取得の勉強会を開催し、職員の技術向上を支援している。 研修報告書を作成しているが、その内容を全職員で共有するまでには至っていない。	○	受講した研修内容を全職員に周知し共有することを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当ホームからの働きかけで、市内のグループホーム8事業所で「地域密着型サービス連絡会」を設立し、2ヶ月に1回開催している。 管理者は、今後更に交流を深め相互訪問や研修などを通してサービスの質の向上に活かすことを考えている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者の自宅に管理者や介護支援専門員が訪問して話を聴き、生活ぶりを見たりしながら馴染みの関係を築いている。 ホーム見学はできるが、利用者と食事やお茶のみを体験できるまでには至っていない。	○	利用希望者や家族がホームでの生活の一部を体験できる体制づくりを期待する。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の得意なことを教えてもらったり、相談をもちかけるなどして共に過ごし支えあう関係を築いている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族との話しあいから一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。 職員は朝礼や夕礼時にその日の出来事などを報告し合い、利用者の希望を把握するとともに家族の協力を得ながら実現できるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族から希望を聴いたり、日常をともにしている職員等の意見を参考にしながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は6ヶ月に1度定期的に見直すほか、心身の状態に即してその都度見直している。 作成した介護計画は家族等に説明し確認印をもらっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の健康管理について協力医療機関の看護師に相談や助言を受けるほか、協力医との連携により認知症状や療養について相談できる体制になっている。 利用者が入院した場合は面会に訪ねるなど関係の維持に努め、退院の際には看護サマリーや医師の指示書にそって支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の健康維持管理のため、協力医療機関から定期的な訪問診療を受けている。 利用者や家族が希望するかかりつけ医への通院支援をしている。 受診結果は、その都度電話等で家族に報告し連携を図っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化対応・終末期ケア対応指針」を作成し、家族等には契約時に説明している。 希望があれば医療機関や家族と連携を図りながら看取りまで支援する方針になっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの尊重は基本理念の一つに謳っており、個人情報の取り扱いについては明文化したうえで契約時に説明している。 面会簿は個別カードに記入したものを事務室に提出してもらうなど配慮しているが、個人ファイルを事務室の入口付近のラックに並べるなど、配慮に欠ける面もある。	○	個人ファイルは人目につかないよう保管に留意することが望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての1日の流れは決まっているが、職員は利用者一人ひとりのその日その時の思いを大切に支援に努めている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ひなちらしやおせち料理など季節や行事にちなんだ献立を作成したり、ホームで収穫した野菜を調理するなど、楽しく食事ができるよう支援している。 利用者の希望にそってレストランや寿司屋など外食の支援をしている。 利用者の好みや咀嚼能力に合わせた調理や味付けなど、工夫しながら支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりの体調に配慮し、希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事やおやつ作り、洗濯物たたみ、家庭菜園など利用者が得意とすることを見つけ、役割を担ってもらうことにより意欲的な生活ができるよう支援している。 担当職員が行事を計画し、気晴らしができるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体力や体調にあわせ散歩コースを設定し、無理なく外気に触れられるよう支援している。 利用者の買い物へ付き添ったり、ホームの買出しに誘うなどで外出支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者や職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、日中玄関に施錠をしていない。 開閉時はセンサーで音が鳴るようになっており、外出を察知した場合は職員が付き添うなど、利用者の思いを優先して支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の指導のもと避難訓練を実施して報告書を作成し、運営推進会議や家族会などで報告している。 地域の自主防災訓練に参加するなど地域と連携している。 夜間の火災や地震、利用者急変時に区分して連絡網を作成し、事務室内に掲示するとともに緊急時に備えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の資格を持つ職員がカロリー計算した献立を作成し、バランスの良い食事を提供している。 毎食の食事量はチェックしているが、水分量をチェックするまでには至っていない。	○	水分摂取量をチェックするとともに、職員で共有することを期待する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々とした居間は天窓から十分な採光を確保し、ソファやテレビ、ピアノなど設置して利用者が寛げる空間になっている。 居間に連なるウッドデッキへ自由に入出りができ、気分転換ができるスポットになっている。 玄関付近に季節の草花を植えたり、ミニ菜園で野菜作りを楽しむなど四季が感じられる共用空間づくりをしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者の希望にそって畳敷きにしたたり、床との境に三角スロープを設置して段差を解消するなど、居心地よく過ごせるよう支援している。 馴染みの家具や仏壇などを持ち込んだり、家族の写真や手作り品などを置き寛げる空間づくりをしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。